

『2018年上半期（1月～6月）JVA統計調査について』

当協会は9月14日(金)午後1時30分より、協会会議室において『2018年上半期（1月～6月）JVA統計調査結果』について記者発表会を開催しました。

以下に記者発表された報告の中から抜粋して2018年上半期の統計調査結果についてご報告いたします。

なお、同調査の詳細な結果は『日本映像ソフト協会統計調査報告書 Vol.86』として冊子にまとめられ、一般の方にも有料にて頒布しております。

詳細については、広報課上田または倉橋まで(03-3542-4433)、もしくは協会ホームページ「お問合せ」にアクセスしてください。

以 上

2018年上半期統計調査の結果について

1. 今期のビデオソフトの総売上金額は858億8800万円で前年同期比93.7%だった。
そのうち、DVDビデオは451億7500万円で前年同期比89.0%、ブルーレイ(Ultra HD Blu-rayを含む。以下、ブルーレイと表記。)は407億1300万円で同99.5%となった。ブルーレイはほぼ前年同期並みとなったが、DVDの減少が全体に大きく影響した。売上金額に占めるDVDビデオとブルーレイの割合は52.6対47.4だった。
2. ビデオソフト全体(DVDビデオとブルーレイの合計)の売上金額を販売用、レンタル店用の市場別にみると、販売用が677億1800万円で前年同期と比べて3.0%の減少だったが、レンタル店用は175億6700万円で13.7%の減少となり低落傾向が続いている。販売用、特殊ルート、レンタル店用、業務用の売上金額における割合は、78.8対0.3対20.5対0.4となった。
3. 販売用全体(DVDビデオとブルーレイの合計)に占めるブルーレイの割合は57.4%となった。DVDビデオの販売用売上金額は288億2400万円で前年同期比91.9%と前年同月を割り込んだが、ブルーレイの販売用は388億9400万円で同101.1%と前年同期を上回った。
販売用全体の売上金額をジャンル別に見てみると、昨年低調に終わった『音楽(邦楽)』が前年同期比122.6%と大きく上回り構成比44.0%を占め1位となった。しかしこれに続く構成比2位(25.3%)『日本のアニメーション(一般向け)』は前年同期比93.0%、構成比3位(9.1%)の『洋画(TVドラマを除く)』が同91.2%、構成比4位(5.9%)

の『邦画 (TV ドラマを除く)』が同 69.6%、構成比 5 位 (同 3.8%) の『芸能・趣味・教養』が同 92.0%といずれも前年同期を割込み全体に影響した。

各ジャンルの売上金額におけるブルーレイの割合は、『日本のアニメーション (一般向け)』が 82.2% (前年同期は 77.6%)、『洋画 (TV ドラマを除く)』は 75.2% (同 69.7%)、『邦画 (TV ドラマを除く)』は 49.3% (同 46.8%)、『音楽 (邦楽)』は 48.3% (同 46.0%) となり、ブルーレイへの移行が進んでいる。

4. DVD ビデオの販売用の売上金額は 288 億 2400 万円で前年同期比 91.9%だった。

ジャンル別に見てみると、構成比 53.5%と過半のシェアを占めた『音楽 (邦楽)』が前年同期比 117.4%と売上げを伸ばした。一方で構成比 2 位 (10.5%) の『日本のアニメーション (一般向け)』が同 73.6%、構成比 3 位 (7.0%) の『邦画 (TV ドラマを除く)』が同 66.3%、昨今シェアを伸ばして構成比 4 位 (6.2%) となった『芸能・趣味・教養』も同 85.2%なるなど、他ジャンルが前年同期を大きく下回り全体では前年同期を割ることとなった。

5. ブルーレイの販売用の売上金額は 388 億 9400 万円で前年同期比 101.1%となり、2017 年下半期に続いて、前年同期を上回ることとなった。

ジャンル別に見てみると、『音楽 (邦楽)』とシェアを二分している構成比第 2 位 (36.2%) の『日本のアニメーション (一般向け)』は同 98.6%、構成比 3 位 (11.9%) の『洋画 (TV ドラマを除く)』も同 98.3%とわずかに前年同期に届かなかった。構成比 1 位 (37.0%) の『音楽 (邦楽)』は同 128.7%と好調だった。なお、構成比 4 位 (5.0%) となった『邦画 (TV ドラマを除く)』は前年同期にビックタイトルがあったこともあり、前年同期比 73.3%にとどまった。

6. レンタル店用全体の総売上金額に占める DVD ビデオとブルーレイの構成比は、90.4 対 9.6 で、相変わらず圧倒的に DVD ビデオが占めている。DVD のレンタル店用の売上金額は 158 億 8700 万円で前年同期比 85.1%と縮小傾向が続いているが、ブルーレイは 16 億 8100 万円で同 100.5%と 2016 年下半期ぶりに前年同期を上回った。

7. レンタル店用全体の売上金額をジャンル別に見てみると、構成比 1 位 (23.3%) の『洋画 (TV ドラマを除く)』が前年同期比 94.3%、構成比 2 位 (18.1%) の『邦画 (TV ドラマを除く)』が 90.7%、構成比 3 位 (16.8%) の『日本のアニメーション (一般向け)』が同 97.3%、構成比 4 位 (13.8%) の『アジアの TV ドラマ』が同 70.8%と主要ジャンルがいずれも前年同月を割り込んだ。

ブルーレイの割合の高いジャンルは『洋画 (TV ドラマを除く)』で、金額で 25.1%、数量では 20.8%がブルーレイの売上で占めている。

以上